

## 鹿児島お手玉の会設立 10周年記念事業を開催 講演会・講習会や記念誌の発行そして交流会など



鹿児島お手玉の会では、設立10周年を記念して平成25年8月31日(土)、9月1日(日)の両日、記念事業を開催しました。台風15号の接近で開催が心配されましたが、種子島からの参加者は船の欠航を心配、3日前から鹿児島に入るなどの配慮があり、記念事業は予定どおり行なわれました。

9月1日は、「健康お手玉・講演会と実技の集い」が、始良市の始良市加音ホールで行なわれ、鹿児島お手玉の会の会員をはじめ和歌山、長野、広島、宮崎、熊本などからの参加も含め180人が集いました。

午前中は、山本清洋鹿児島お手玉の会会長の挨拶、日本のお手玉の会の武田信之理事の挨拶について、ヘルスアートのクリニクくまもと院長の中原和彦医学博士(日本のお手玉の会顧問)の「心と身体を癒すお手玉の効果」の講演がありました。

中原博士は、お手玉をゆりながらお手玉が脳の活性化に果たす効果や、心と身体への健康の増進にもたらす効用を、ユーモアを交えながら話をされ、参加者は笑顔で聞き入っていました。

午後の実技の研修は、鹿児島お手玉の会会長で鹿児島大学名誉教授の山本清洋教育博士(日本のお手玉の会副会長の「上手くなるためのお手玉」、鹿児島お手玉の会副会長の宮迫恵子さんの「誰でもできるお手玉遊び」、鹿児島お手玉の会理事長の西田恵子さんの「脳を活性化させるお手玉遊び」の3つの分野に分かれて行なわれました。



どの会場も笑顔があふれ、楽しみながら研修がすすめられました。参加者も、「有意義な講習会でした。きょう体験したことを実際の場面で生かしたい」と話していました。

前日の8月31日は、「お手玉ゆつて和・笑・輪く豊かなお手玉の世界を目指す懇談の夕べ」が、鹿児島市のホテル吹上荘で行なわれ、会員ら50人が参加しました。出席者は鹿児島お手玉の会の10年の歩みを振り返りながら、グループごとに歌や舞踊、ちよんかけごまなどの出し物を披露し、和やかなひとときを過ごしました。

また、鹿児島のお手玉の会10年の歩をまとめた記念誌『新しいお手玉の世界』(日本のお手玉の会副会長・山本清洋編著・南方新社)の出版披露も行なわれました。

